古代フラと支配者階級の権威

—古代ハワイにおけるフラの政治的機能—

目黒 志帆美（東北大学大学院国際文化研究科　専門研究員）

Ancient Hula and the Authority of Ruling Chiefs: The Function of Hula in the Ancient Hawaii

Shihomi MEGURO

Abstract

Hula, a traditional dance of Hawaii had been closely associated with social, religious, political conditions in the ancient Hawaii. However, the study of hula has paid a slight attention to the political function of it. Actually, hula had a special meaning for the ruling chiefs in Hawaii, because Hawaiian kings regarded hula as a means to demonstrate their authorities. Especially, king Kalakaua revitalized ancient hula to show his royal prerogative on the eve of the annexation to the United States.

From these historical facts, this paper aims to clarify the political function of hula for the ruling class. For this purpose, this paper considered the characteristics of the ancient Hawaiian society, then examined the function of the ancient hula through the records of the contemporaries such as European explorers and Hawaiian historians.

The ancient Hawaiian society was characterized by the class system, based on the indigenous religion. In this society, ruling chiefs were genealogically lines of the indigenous gods. This meant that the closer a chief's line was to the gods, the higher the status of the chief was. However, they had little means to demonstrate the orthodoxy of their authority because ancient Hawaiians had no written words. So they had to depend on the function of hula as a means to show their sacredness and orthodoxy.

Therefore, this paper concluded that ancient hula was not a mere symbol of ethnic identity, but the "political culture" which combined closely with the authority of ruling chiefs.

Key Words: politics of dance, ancient hula, Hawaii, ruling chiefs, authority

ハワイの伝統舞踊フラは元来、社会・信仰・政治と深く結びつく文化であったが、古代フラがハワイ社会のなかでいかに機能したか、という点についてはこれまで等閑視されてきた。そこで、本論はフラと統治との関係に着目し、とりわけ支配者階級にとってのフラの機能を明らかにするものである。それというのも、歴代ハワイ国王は伝統的王権を誇示する媒体としてフラを重要視したのであり、ここから支配者階級にとってのフラが特別な意味を持っていたと考えることができるからである。

本論では、古代ハワイ社会の特質を考察したうえで、18世紀後半から19世紀前半の間に西洋人探検家やハワイアン歴史家によって記述された記録をもとに、古代フラの機能を検証した。古代ハワイ社会の特質は、土着信仰とこれを基盤とした身分制社会にあった。ここにおいて支配者階級は神の系譜に位置付けられ、血統上神に近いほど高い地位を享受した。しかし、文字の存在しないハワイ社会において血統の正統性を裏付ける根拠は乏しく、それゆえ支配者階級はフラを通じて自らの血統の神聖性・正統性を誇示したのだった。

ここから、古代フラが単なるエスニック・アイデンティティの象徴として位置付けられるべきものではなく、統治者の権威と結びつく政治的文化であると結論付けた。

キーワード：舞踊の政治性、古代フラ、ハワイ、支配者階級、権威

はじめに

フラ（hula）とは、ハワイ語で「踊り」を意味するとおり、ハワイの伝統的舞踊を指す。現在、フラのジャンルは現代フラ「アウアナ」（'auana）と古代フラ「カヒコ」（kahiko）の二つに大別されているが、このうち前者はギターやウクレレをともなうハワイアン音楽に合わせて、スカート丈の長いドレスやアロハシャツを身に着けたダンサーが踊るフラを指す。これに対し、カヒコは打楽器とチャント（chant、詠唱）やメレ（mele、歌詞あるいは詩）をともなった古代フラを指し、これは古代ハワイ社会で踊られていたようにハワイ土着の神々への信仰心や王族への崇敬をテーマとしている。カヒコの衣装としては、ハワイに自生するティーリーフなどの葉でできたスカートなどが用いられ、その踊りは古代フラを再現する形で披露される。

こうした新旧のジャンル区分が一般的となったのは、ハワイ島ヒロで毎年春に開催されているフラの競技大会「メリーモナーク・フェスティバル」（Merrie Monarch Festival）がフラの競技種目としてカヒコとアウアナの二種目を設けたことによる。1971年からフラの競技大会として存続している同フェスティバルは、アメリカ人宣教師の弾圧を受けてきたフラを復興した第7代ハワイ国王カラカウア（David Kalākaua、在位1874-1891）の顕彰と、ハワイアンの伝統文化であるフラの継承を目的としている。そして、いまやこのフェスティバルはフラの世界最高峰を決定するハワイ州最大規模の催しとして知られ、伝統的フラの存在感を世界に示す場として機能しているのである。

ここからは、メリーモナーク・フェスティバルをつうじて伝統的フラがその存在を世界にむけてアピールすることに成功していることがうかがえる。さらに日本国内に目を転じれば、日本人のフラ愛好者が「本物のフラ」を追求しようと古代フラを学ぶ動きが近年顕著に見られている。以上のことから、伝統的フラへの関心はグローバルな規模で高まっているといえよう。

しかしその一方で、アカデミックな領域において古代フラがいかに機能してきたか、という問題はつきつめられていないのが現状である。フラを対象とした研究の嚆矢は、1909年に出版されたナサニエル・B・エマソンの *Unwritten Literature of Hawaii* であった。エマソンは、ハワイアンのフラ実践者にたいするフィールドワークをもとに、民族誌学的アプローチを用いて古代フラを分析し、その芸術性を高く評価した（Emerson, 2007）。これによって19世紀をつうじて白人側から「野蛮性」の象徴として非難されてきたフラは、ノスタルジックな民族文化として見直されることとなった。1970年代以降になると、ハワイアン研究者によるハワイ史研究の興隆のなかで、古代フラはエスニック・アイデンティティの象徴、あるいは白人支配への抵抗のアイコンとみなされるようになった（Silva, 2004: 89）。すなわち、先住民権利回復運動が興隆するこの時期、ハワイアンの自立性を主張する抵抗史観が支配的となるなかで、フラの歴史もその史観を直截に反映するようになったのである。ここにおいてフラは、アメリカ人宣教師を中心とした白人による弾圧にもかかわらずハワイアンの抵抗によって再興し蘇生したとされ、これによって「抑圧と抵抗の物語」としてのフラの歴史が定着した。しかし、実際にはハワイの歴史もフラの歴史も、そのような単純な物語としてとらえることはできないはずである。それというのも、ハワイ王国は、ハワイアン内部の複雑な階層構造と多様なエスニシティを擁するなかで[注1]、諸外国との協調関係を維持するための諸方策を巧妙に打ち出すこと

で独立を維持してきたのであり、このなかで国王は、王権の正統性を担保する手段をフラにみいだしてきたからである。しかし、先行研究においてはフラと統治構造との関係性を問う傾向は希薄であり、とりわけ古代フラがハワイアンの社会のなかでいかなる機能を果たしたのかといった問題は等閑に付されてきた。したがって、古代フラのあり方もまた歴史的文脈のなかでつぶさに検討する必要があろう。

以上の問題関心から、本論はフラが古代ハワイ社会において果たした役割に着目したい。とりわけ、カメハメハ五世（在位1863-72）やカラカウアといった歴代ハワイ国王がフラを通じた王権強化を試みたことに鑑み、本論は支配者階級の権威とのかかわりから古代フラの機能を解明する分析視角を採用する。なお、資料的制約から古代フラにかんする一次資料は限定されるが[注2)]、現存するハワイアン歴史家やハワイを訪れた西洋人の記録を最大限に活用し、これらをもとに分析をおこなう。

ところで、近年の舞踊研究においては、絶対王政期フランスのバレエが王政のプロパガンダとして機能していた側面や、舞踊が民族意識と結びつくことでナショナリズムを涵養する側面などが指摘されている（市瀬、2012: 8-19, 松本、2003: 53-90）。このような舞踊と統治構造との関係性や、舞踊を手段としたポリティクスの実態に迫る試みは、舞踊の有する「政治性」を追究するものといえ、これによって舞踊を分析の中心に据えた学問の地平が広がっている状況にある。

こうした舞踊研究の潮流をふまえ、古代フラを時代的文脈に据えつつ、社会・政治的実態と重ねてその機能を検討することは、舞踊研究のみならず歴史研究の新たな分析視角を示すことにつながると思われる。以下では古代ハワイ社会の特質を検討したうえで古代フラの実態を検証することで、フラと支配者階級の権威との関係性を明らかにしたい。

1　古代ハワイ社会の特質

ハワイアンの起源は11世紀頃から約200年かけてタヒチから渡来したポリネシア系民族とみられている（Kirch, 2012: 128）。15世紀から17世紀中葉にかけて、ハワイ各島では首長を頂点とする身分制社会が成立し、そのもとに集権的な農耕システムが確立した（Kirch, 2012: 128）。

古代ハワイの身分制社会は、当初は各島の地区ごとの首長が厳格な階層区分のもとに庶民を統治する形で成立した（後藤, 2008: 12-13）。15世紀にウミ・ア・リロア（'Umi a Liloa）が武力でハワイ島を統一して以降は、ひとりの大首長が島全体を統治する体制が確立した。大首長はより広大な領土を求めて他島への侵略を繰り返すようになり、18世紀にハワイは本格的な戦国時代に突入した。

群雄割拠の乱世に頭角を現しハワイ全島を手中におさめ、1810年にハワイ王国を樹立したのがカメハメハ一世（在位1810-19）であった。一世の統治期においては、外部からの侵入や大きな内紛が生じることなく、土着信仰と伝統的慣習を基盤とした安定した統治が存続した。しかし、一世が死去した1819年からアメリカ人宣教師がハワイでの布教活動を展開する1820年代にかけてのハワイ王国は、土着信仰を廃しキリスト教を基盤とした国家へと変貌していく[注3)]。この社会的変化のなかで、フラはプロテスタンティズムにそぐわない悪習とみなされ、ハワイ社会からの周縁化を余儀なくされた[注4)]。本論では、この「文化改革」以前のハワイ社会を古代ハワイ社会、同時期のフラを古代フラと呼ぶこととし、以下ではまず古代ハワイの特質をなす信仰と身分制の実態を明らかにする。

1-1　『クムリポ』にみるハワイアンの信仰体系

ハワイには数々の神話が存在するが、このうちハワイアンの信仰心と世界観の形成にもっとも大きな影響を与えたのは創生神話『クムリポ』（Kumlipo）である。『クムリポ』は第7代国王カラカウアによって1889

年にハワイ語で編纂され、1897年に第8代国王リリウオカラニ（Lili'uokalani、在位1891-1893）によって英訳された。支配者階級が口伝で受け継いだこの『クムリポ』は、2000行以上からなる膨大なテクストである（Beckwith, 1972: 2, 7, 42-45）。

『クムリポ』第一の特徴は、世界と人間の起源をハワイアンに対して示した点にある。ここでは暗闇が万物の根源であるとされ、暗闇のなかから海の生物、陸の生物がうまれ、大地から神と首長が誕生したとされる。この神話はつまり神が万物を創造したのではなく、神に先行して自然が存在していたという世界観を提示した。

『クムリポ』第二の特徴は、支配者階級が神々の系譜に位置することを強調した点にある。これは、このテクストの後半部において連綿と綴られる神々とそれに連なる首長の系図から読み取れる（Beckwith, 1949: 290）。したがって、歴代のハワイ国王は自身の血統の正統性を裏付ける『クムリポ』を王権のよりどころとして重視したのである。

以上のように、『クムリポ』は世界の起源が自然にあるとし、支配者階級の正統性を裏付ける根拠となった。同時に、この神話が神と首長階級との血縁関係を明示したことは、神に近い系譜にある首長ほど高い地位を享受できることを意味したのである。

1-2　支配者階級の聖的権威

以上のように、古代ハワイ社会では神との近接性の程度が支配者の地位の高低を決定することになった。それゆえ、高位の支配者の間では聖なる血統を存続・強化するために、近親間の婚姻がもっとも望ましいとされた。19世紀前半に活躍したハワイアン史家、デービッド・マロ（David Malo）は、次のような記録を残している。

> 高位の首長にとってもっとも望ましい結婚相手は、両親を同じくする妹か姉であった。こうした夫婦はピオと呼ばれ、そこに子供を授かった場合、その子供は最高位の首長ニアウピオとなった。ニアウピオは非常に神聖な存在なので、ニアウピオの前で人々はひれ伏せなければならず、その人物は神、アクアと呼ばれた。ニアウピオが日中、外出するとなると、人々はみな地面にひれ伏してその人物に崇拝の念を表さなくてはならないため、ニアウピオは夜中に外出することが多かった（Malo, 1898: 54）。

このように支配者階級においては、両親を同じくする兄妹、姉弟間の子供は神と同等の存在として位置づけられた。それだけではなく、自分の娘との間に生まれた子供、異母（異父）兄弟姉妹間の子供、おじと姪との間に生まれた子供もまたニアウピオとして神聖視された（Malo, 1898: 55）。また、こうした近親婚のもとで子供が誕生した場合、その両親の地位も高められた（Beckwith, 1972: 11）。

このように血統がその人物の地位を確定するとはいえ、文字が存在しない古代ハワイ社会においては、口伝の神話や問答をつうじてしか血統の確認はできなかったのである。このことは、後述するようにフラが血統の正統性を誇示する手段として機能したことと大きくかかわる。

1-3　身分制社会とカプ

現実に支配者の権威を維持する役割を果たしたのは自らと庶民とを隔てる厳格な戒律であった。この戒律はカプ（kapu）と呼ばれ、法的拘束力を有した。カプは、神聖な力、マナを保護し、汚れたものノア（noa）から身を守るという考え方を基盤としている（Kirch, 2012: 39）。カプに背いた庶民は虐待、もしくは虐殺されることもあったため、首長に対する畏怖の念とあいまってカプは厳格な拘束力をもった

(Kamakau, 1992: 229-31)。

カプは階層間の境界を厳格に定める一方、男女間の行動をも規制していた。たとえば、男女同席の食事の禁止や、月経中の女性の隔離を定めたカプは、男性を神聖視し、女性を不浄とみなす古代ハワイ社会のジェンダー観を如実に反映している（Kamakau, 1992: 3)。

以上のように、カプは古代ハワイの身分秩序とジェンダー秩序を固定化する機能を有していた。したがって、階層を問わずカプに背くことは神にたいする冒涜とみなされた。とくに、男女が同席した場で食事をした者は、たとえそれが首長階級であっても、奴隷以下の存在とみなされたのであった（Kamakau, 1992: 222)。

カプによって首長への隷属を強いられていた庶民は山から海へと広がる生活共同空間アフプアア（ahupua'a）に居住し、自給自足生活を営んだ（山中 , 2003: 101-02; Kame'eleihiwa, 2003: 28-29)。古代ハワイに土地所有概念は存在せず、土地（アーイナ、'āina）はすべて神のものとみなされ、大首長が神にかわって土地を管理するものとされていた（Van Dyke, 2008: 11-12)。

庶民は税として収穫物を自らの居住地を治める首長へ献納し、それらは最終的に大首長のもとへと集められた。庶民の間に定着していた「神の土地」という概念と、そこでの豊饒を求める気持ちは揺るぎない信仰心へと結びつく一方、庶民と首長との関係はカプによって絶対的な従属関係として固定化されたのであった。

以上のように、古代ハワイ社会の特質は土着信仰を基盤とした首長制にあり、こうした厳格な身分制社会が数百年間持続したのは、カプによって首長階級の権威が支えられていたからであった。すなわち、古代ハワイ社会において首長は神話が保証する聖的権威とカプによって保護された世俗的権威のもとに統治を行っていたのである。

2　古代フラと支配者階級の権威

以上の特質を有する古代ハワイ社会においてフラは、支配者階級の権威といかに結びついていたのだろうか。古代フラの特質として興味深いのは、これが庶民にとっての娯楽、すなわち「大衆文化」としての側面をもつのと同時に、支配者階級の権威と結びつく「ハイカルチャー」としての側面を有していた点である[注5)]。しかしながら、当然フラにはこの二つに収まらない側面が存在する。庶民は純粋な信仰心から神や支配者階級への崇敬を自発的に表明しようとフラを踊ったはずであり、支配者階級もまた自らの娯楽としてフラに親しんだはずである。このような「大衆文化」と「ハイカルチャー」との「重なり」が存在したことをふまえたうえで、支配者階級にとっての古代フラの機能を考察する本論の目的から、さしあたり以下では庶民と支配者にとってのフラがそれぞれいかなる機能を果たしたのか考察する。

2-1　庶民にとってのフラ

マロはフラが「ハワイアンに非常に親しまれている娯楽である」と述べている（Malo, 1898: 231)。ここで指摘されているフラの娯楽性は、第一にチャントの創作のあり方にみいだすことができる。古代フラは、詠唱であるチャントをともない、チャントの内容を身体的に表現する形で踊られた。チャントのうち支配者階級の系譜を讃えるものや神々の信仰にかかわる特別なものは専門家によって創作され継承されたが、それ以外のチャントは階級を問わず折にふれて創作された。19世紀なかばに活躍したハワイアンアン史家サミュエル・M・カマカウ（Samuel M. Kamakau）によれば、チャントのなかには自然現象を描いたもの、先祖を讃えるもの、予言を行うもの、社会や支配者階級にたいする不満を表すものなどが存在した（Kamakau,

1992: 240-41)。これらのチャントが作られるさいには「カオナ」(kaona) という創作手法が用いられた。カオナとは、歌詞のなかの単語あるいは一文に隠れた意味を持たせる手法で、その結果、チャントには隠喩のような表現が数多く含まれることになった (Emerson, 2007: 69)。ハワイアンはこのように歌詞に多義性を持たせ、そこで性的な快楽や社会への不満などを表現してきた。このようにして創作されたチャントはハワイアンのみ、さらにはその内部の特定の集団のみがその意味を理解しうるものであり、理解の共有をつうじて彼らの結束は強固なものとなった。したがって、以上のチャントに合わせて踊られたフラもまたコミュニティの結束を強固にする役割を果たしていたと考えられる。

フラの娯楽性を示す第二の側面は、その「カーニバル性」にみいだせる。以下に示すのは、1754年にハワイ島を統一した大首長カラニオプウ (Kalani'opu'u) が民衆とともにフラを踊った様子をカマカウが記録したものである。

> 彼［カラニオプウ］はフラダンスを大いに楽しむ人だった。人々はみな、老いも若きも、やっと歩けるようになった赤ん坊でさえも、踊りのために彼の前に呼び出された。ここでもっともよく踊られたのは、カラッアウ［二本の木のスティックを互いに打ち鳴らしながら踊るもの］や、アラ・アパパ、そしてマリオネットを使ったダンス（フラ・キイ）である。ほかの首長たちも庶民もみな踊りの輪に入り、もう80歳を越えたカラニオプウもそのなかで一緒に踊っていた。彼は次のようなチャントに合わせて踊った。
>
> ヌウアヌは雨でずぶぬれ
> 凄まじい突風が吹き荒れる
> 崖に向かって行ったり来たり、出たり入ったり
> 崖の斜面に風が吹き荒ぶ (Kamakau, 1992: 105. ［ ］は筆者による)

高位の首長が庶民とともに踊るという上の描写からは、日本における盆踊りのように階層を越えて人々が楽しむことのできる大衆文化としてフラが普及していたことがわかる。ここで想起されるのは、ロシアの文学研究者、ミハイル・バフチンの「カーニバル論」である。バフチンは、著書『フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化』において、舞台上でライトに照らされた演技者とライトを浴びない観客とに明確に区分される舞台芸術とは異なり、カーニバルはすべての民衆が参加する祝祭であると述べている (バフチン, 1973: 13-14)。こうしたカーニバルの特徴は、民衆と支配者階級とが渾然一体となって踊るフラの大衆的側面と一致する。バフチンは日常生活ではありえないような無礼講がカーニバルの空間では実現可能であると主張し、その特殊なコミュニケーションの特徴を次のように述べる。

> カーニバルが行われている時の、すべての階層秩序的関係の廃棄は、特に重要な意味を持っていた。公式の祝祭では、階層秩序的差別が特に強調して示された。その際には、自分の称号、官位、功績を表彰するすべての飾りを身に付けて出席し、自分の階級にふさわしい位置につくことが要請された。祝祭は不平等を神聖化した。これと反対に、カーニバルでは一切が平等とみなされた。(バフチン, 1973: 14)。(傍点は筆者による)

このバフチンの議論にしたがえば、フラもまた支配者と庶民との境界線を曖昧にするカーニバルの一種であったといえよう。つまり厳格な身分制社会に生きていた民衆にとって、一時的にではあれ階層間の差異を解消するフラはいわばガス抜きのような役割を果たしていたと考えられる。

以上のチャントの創作にみられる娯楽性と、フラが創出される空間の「カーニバル性」から、フラが庶民にとってコミュニティの結束を強固にする「大衆文化」として機能していたことがわかる。

2-2　支配者階級にとってのフラとその宗教性

一方、支配者階級にとってフラはとりわけ重要な意味を持っていた。以下のマロの記述は両者の強いつながりを示すものである。

> （フラは）首長や富裕層の豊かさを示すものでもある。首長階級の子供が誕生したさいにはフラの大規模な催しが行われ、多くの財産（property）が踊り手に惜しみなく与えられた。富裕層の子供たちはみなフラの熱狂的ファンである。［中略］踊り手が富裕層の前で踊り、褒美を得ることは古くからの習慣である（Malo, 1898: 231）。（傍点は筆者による）

この叙述は踊り手が支配者階級の庇護を受けていたこと、すなわち、支配者階級がフラに特別な意味をみいだしていたことを示す。その理由は、実は先に引用したバフチンの議論のなかに隠されている。それというのも、たしかにバフチンはカーニバルが階層間の差異を帳消しにする機能を有するとしているが、フラを「公式の祝祭」に重ねて考えた場合、支配者階級にとってのフラは反カーニバル的であると考えられるからである。すなわちフラはカーニバル的要素を有するだけでなく、「不平等を神聖化する公式の祝祭」として、つまり支配者階級の特権性を強調する手段としても機能していたと考えられるのである。このことを検証するうえで、まず指摘しておかなくてはならないのは、フラの宗教性である。

フラの持つ宗教性はまずフラの起源神話にみられる。たとえば、火山の女神ペレの妹ヒイアカがペレを喜ばせるために、ハワイ島ナナフキの海岸でフラを踊ったのがフラの起源だという説がある（Emerson, 2007: 8）。また、四大神のひとりカーネがフラを伝えたとする神話も残されている（Sereno, 1990: 32）。

フラには当初から宗教性が備わっていたため、フラに付随する楽器や衣装、装身具などもすべて神聖なものとみなされた。たとえば、元来神殿における宗教的儀式に使用されていた太鼓パフ（pahu）などのフラの伴奏楽器や踊り手が身につける衣装や装身具は、いずれも神聖な力を持つものとされた（Emerson, 2007: 49-56, 103, 107, 113, 120）。

このようにフラの諸側面に宗教性がみられるのは、フラそのものが神々への信仰心と畏敬を表現する手段であったからである。首長階級が催す「公式の祝祭」で披露されたフラには、神々への信仰をテーマとしたものが多かった。とくにペレやヒイアカ、ラカといったハワイの神々にまつわる神話を伝え、それらの神への信仰心を表現するフラはこうした場において中心的地位を占めた（Pukui and Korn, 1973: 42-69）。

以上でみたフラの持つ宗教性は、支配者階級の聖俗双方の特権性と結びついた。これは、後藤明が指摘しているように、「ハワイの王は宗教的首長であると同時に政治的首長」であったからである（後藤，1997：194）。

前項でみたとおり首長と庶民との間に引かれた明確な階層区分は、首長が神の系譜に連なるという信仰を土台としていた。したがって、支配者階級は自らの統治の正統性を主張するために、自らが神に近い存在であることを強調する必要があったのである。つまり、支配者階級の特権的地位は信仰に裏づけられた神聖性によって担保されていたのであり、フラはその神聖性を具現化する手段であったのである。

2-3　支配者階級の権威とフラ

それでは、フラはいかにして支配者階級の権威と結びついたのだろうか。支配者階級のために踊られたフラとしては、神話や歴史を歌詞と踊りで表現するフラ・アラアパパ（hula ʻalaʻapapa）や太鼓を用い神々に

捧げる目的で踊られたフラ・パフ（hula pahu）など多くの種類のフラが挙げられるが（Emerson, 2007: 57-72, 103-106）、これらのフラが元来いかなる場でどのように踊られたのかを歴史的に立証する資料はほとんど存在しない。したがってここでは、18世紀末から19世紀なかばにかけてハワイアン歴史家や西洋人探検家が残した記録のなかから、支配者の権威とフラとの関連性がうかがえる記録を抽出し分析する。以下ではまず、高位の首長間に子供が授かったと判明した直後に踊られたフラについて検証してみたい。このような場で踊られたフラはこれまでのフラの研究において分析の対象とならなかったが、以下のマロの記録からは支配者の権威とフラとの緊密な関係をみることができよう。

> 女性支配者階級が妊娠したことがわかると、人々はみな新たな首長が誕生すると歓喜した。もしこの夫婦が血縁関係にあればその子供はもっとも高位の首長となるので喜びもひとしおであった。
>
> メレを作詞する専門家ハク・メレ（haku mele）が呼び出され、これから生まれる首長の名声をより高めるために、その子供を賞賛するメレ・イノア（mele inoa、名前の歌）を作るように命じられた。
>
> ハク・メレがメレを完成させると、フラの踊り手たちはこの歌詞を暗誦した。フラの一座はこの歌詞に付す振付や演出を考え、これを男女の踊り手たちみなに周知した。
>
> フラの一座はこの誕生前の首長のためのメレ・イノアを出産日まで詠唱し踊り続けたのだった（Malo, 1898: 136）。（傍点は筆者による）

このように首長階級の子供の生誕前に誕生への期待をこめたフラが踊られていたことからは、妊娠時点からすでにその子供の権威が誇示されていたことがうかがえる。血統が地位を決定づける古代ハワイ社会において、支配者階級の子供の地位は母親の胎内にその生命が宿った瞬間に確定するものであった。さらに、マロがここで指摘するように近親婚の夫婦間に生まれる子供はとりわけ高位の支配者とみなされ、かつこのような子供が産まれればその両親の地位が向上した。したがってこうした夫婦間に子供が授かれば、支配者間の序列に組み替えが生じる可能性さえあった。そのため、首長階級の子供の誕生前に踊られたフラは単に子供の誕生にたいする慶賀を意味するのみならず、新たな統治体制の到来を予告する「祝祭」でもあった。したがって、高位の女性の妊娠にともなって踊られたフラはきわめて政治性を帯びた権威誇示手段として機能していたと考えられる。

支配者階級の子供がいよいよ誕生したあかつきには、さらに大々的なフラの公式行事が繰り広げられ、支配者階級の繁栄を祈念して生殖器を賛美するフラ・マイ（hula ma'i）が披露された（Malo, 1898: 231）。フラをつうじた支配者の特権的地位の正当化は、このフラ・マイにおいてもっとも顕著にみられたのである。ここでは1816年にホノルルを訪れた画家ルイ・コリス（Louis Choris）とコリスとともに訪れたロシア人探検家オットー・フォン・コツビュー（Otto von Kotzebue）の記録から、このフラ・マイがどのように披露されていたのかみてみよう。

コリスが描いたこの絵からもわかるように、男性の踊り手によって披露されるフラは力強さと勇猛さを感じさせるものであった（図1）。一方、コツビューもこのフラについて以下のように述べている。

> 4人の男性が小さな棒でひょうたんを打ち鳴らす鈍い音は、歌とともにテンポを刻んでいた。3人の踊り手は、島々を巡りながら踊りを披露することで生計を立てていた。彼らは、動物の牙でできた腕輪と犬の歯でできた足輪を身に付けているほかは完全に裸で登場したのである。踊り手たちは、我々の目の前で、隣同士並んで、巧みに体を様々に動かして歌の内容を表現したのだった（Barrat, 1988: 202-203）。（傍点は筆者による）

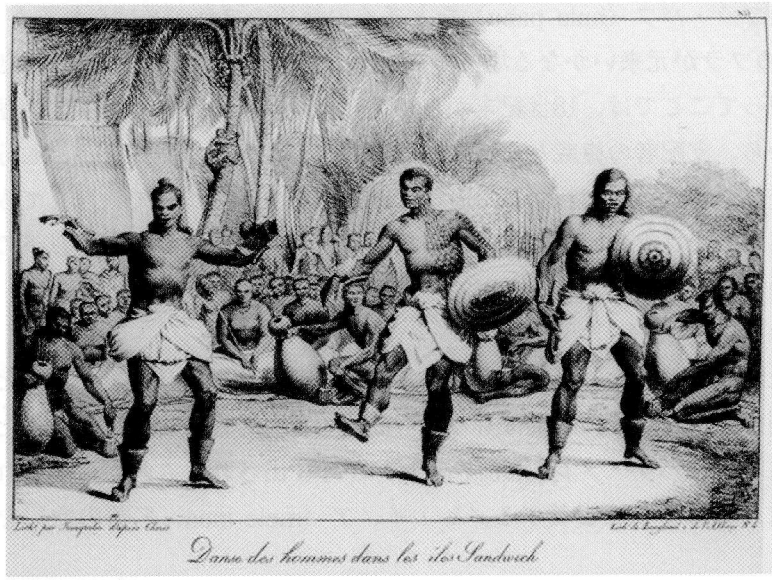

図1　Louis Choris, “Danse des Hommes les îles Sandwich”(1816)
典拠：Hawaii State Archives Digital Collections

演奏者や踊り手の人数、楽器の演奏形態からみて、コツビューが記録したのはコリスが描いたフラの一座と考えることができる。ただし、コリスの絵では踊り手はマロ（malo、ふんどし）を身に付けているが、コツビューは踊り手が完全に裸であったと述べている。両者の相違の要因は定かではないが、コツビューは、上の記述につづけてこのフラが国王の息子の成長を祈る内容であったと述べていることから、彼のみたフラはフラ・マイであったと考えられる（Barrat, 1988: 203）。

このフラ・マイが支配者階級の統治を正当化する手段となりえたのは生殖器がハワイアンにとって特別な意味を持ったからであった。ハワイアンにとって、生殖器は生命の源を象徴し、豊饒を生み出す神聖かつ肯定的なものであった。ハワイの慣習では生殖器を露出することで凶兆や邪気を追払うことができるとみなされており、これを衣服で被うのはあくまでも神聖なものを保護するためであった（Klarr, 1999: 18）。つまり、ハワイアンの生殖器観は、生殖器を猥褻なものとみなしそれを覆い隠すべきとする後代のアメリカ人宣教師のそれとは根本的に異なっていたのである（Sahlins, 1987: 22）。

このフラ・マイと支配者の権威との関連性については、すでに文化人類学者マーシャル・サーリンズ（Marshall Sahlins）が指摘している。サーリンズによれば、古くからハワイにおける性のあり方があまりにも放縦で複雑であったがゆえに、支配者階級が神に連なるべき自らの系譜の直線性を主張することは容易ではなかった。そこで支配者階級は、庶民との差異化、あるいは同等の地位にあるほかの支配者との差異化をはかる役割をフラ・マイに期待したのである（Sahlins, 1987: 22）。フラをつうじた支配者の権威づけが可能となったのは、フラそのものが宗教性を多分に帯びていたうえ、そこに生殖器の神聖性が付加されたためであった。

こうして、フラ・マイは支配者階級の権威を主張するうえでとくに重要性をもったのである。とりわけ、サーリンズも指摘しているとおりハワイ歴代の国王にはその権威を讃えるフラ・マイがそれぞれに存在していたことは、フラ・マイが王権を正統化するものとして機能していたことの証といえる（Sahlins, 1987: 16）。このように、支配者階級の権威正当化手段としてフラが重要視されたのは、支配者階級の地位の証明が困難であったという事情をも反映している。前述したように血統がその人物の地位を確定するうえで絶対性をもったにもかかわらず、血統の証は「記録」ではなく「記憶」にもとめざるをえなかった。このことはすなわち、支配者階級の権威のよりどころが不安定であったことを示している。それゆえ、支配者の権威を

誇示する手段としてフラは重要な役割を演じていたといえよう。

おわりに

以上本論では、古代ハワイ社会の特質が土着信仰と身分制に求められることを確認したうえで、古代フラがハワイ社会において果たした役割を考察した。「大衆文化」と「ハイカルチャー」という二つの顔をもつ古代フラは、支配者階級にとっては自らの権威を誇示する手段として機能していた。

とりわけ高位の女性の妊娠が判明したときから出産日にかけて踊られるフラは、場合によってはその家族の成員の地位向上とそれによって統治構造にもたらされる変容を告げる役割をも果たすことで、その血統の権威を誇示した。また、子供の生誕後に披露される、支配者階級の生殖器を賛美するフラ・マイは、支配者の聖の領域における正統性を強調することで、俗の領域における正統性、すなわち統治を正当化する役割を果たした。

フラを通じて支配者の権威が誇示されたことは、後代の国王カラカウアが自らの戴冠式の場でフラ・マイを踊らせた事実からも傍証される。1883年2月に行われたカラカウアの戴冠式で、彼は260曲にも及ぶフラの演目を7つのグループに踊らせたが、このうち少なくとも6曲はフラ・マイであった[注6)]。このことは、在地白人の反発を惹起し、フラのプログラムを印刷した人物がわいせつな言葉を印刷したとして有罪判決を受ける事態に発展した（Pacific Commercial Advertiser, March 10, 1883 ; Silva, 2004: 109）。この戴冠式挙行の目的には、カラカウアが自らの王位の正統性を主張することが含まれていたことからすれば、フラ・マイ敢行の意図はまさに自身の王権誇示にあったと考えられる。カラカウア統治期のハワイ王国では王権の弱体化を求める在地アメリカ人が政治的実権を確固たるものにし、外交においては1887年に締結された米布互恵条約によってアメリカに真珠湾の独占的使用権が付与されたことで、ハワイにおけるアメリカの優位性は決定的となった。つまり、カラカウアのフラ復興には、古代フラの政治的機能、すなわち権威の保障・強化手段としてのフラの機能に訴えることで王権の危機を脱する意図があったといえる。

ここから、古代フラは従来捉えられてきたように単にエスニック・アイデンティティの表象にとどまらない政治的機能を有していたことが明らかである。すなわち、古代フラは「ハイカルチャー」として支配者の権威を誇示する機能を有しており、それゆえ歴史をつうじて統治者はフラのその役割に期待を寄せたと考えられよう。

注

注1）1778年にイギリス人ジェームズ・クックがハワイを「発見」して以降、西欧各国から探検家や商人がハワイを訪れるようになると、ハワイアンが免疫をもたない病原菌がハワイにもたらされ、ハワイアンの人口は減少の一途を辿った。19世紀にはいるとアメリカ人宣教師が宗教・政治・経済的実権を掌握する一方で、ハワイアン人口の減少によって砂糖プランテーションでの労働力不足が深刻化した。このため、ハワイ王国は19世紀後半から中国、日本をはじめとするアジア各国から移民を積極的に受け入れたことで、ハワイを構成するエスニシティはますます多様化した。

注2）1820年にアメリカ人宣教師がハワイ語を文字化するまでハワイには文字が存在しなかったことから、とりわけ19世紀前半以前のハワイにかんする一次資料は少ない。このことはハワイ史全般がかかえる問題である。

注3）1819年、ハワイ王国では女性支配者の主導下で、伝統的禁忌カプの廃止が断行された。これ以降、土着信仰の廃止が進む一方、1820年以降はアメリカ人宣教師による布教活動と「文明化」運動がさかんに展開された。

注4）アメリカ人宣教師がいかなる思想のもとでフラを「非文明的」とみなしたかについては、目黒（2015）を参照。

注５）15世紀以降、ハワイにおいてはひとりの大首長が島全体を統治する体制が確立したが、この体制のもとでは大首長あるいは王、アリイ・ヌイ（ali'i nui）を頂点として、以下島内の諸地方を統治する首長アリイ・アイモク（ali'i 'ai moku)、地方首長アリイ・アイ・アフプアア（ali'i 'ai ahupua'a)、そして庶民が連なっていた。しかし、考古学者カーチは、首長のなかに９つの階層が存在していたと指摘する。ただし、これら細分化された諸階層とフラとの結びつきを検証することは困難であることから、本稿ではさしあたり「庶民」と「支配者」に大別したうえで二者にとってのフラの機能を分析する。（後藤，2008: 31-32頁；Kirch, 2012: 36）

注６）戴冠式の演目については、バレルらによるフラの歴史書 *Hula: Historical Perspectives* に掲載されている以下のプログラムを参照した。なお、このプログラムを作成した人物は不明である。List of Hula at the Coronation of King Kalakaua（Reproduction of program in Bishop Museum Library), quoted in Barrère, 1980: 133-139.

文献

1）バフチン、ミハイル，1973,『フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネッサンスの民衆文化』川端香男訳、せりか書房：東京．

2）Barrat, Glynn, 1988, *Russian View of Honolulu, 1809-1826*, Carleton University Press: Ontario, 202-203.

3）Barrère, Drothy B., Mary Kawena Pukui, and Kelly Marion, 1980, *Hula: Historical Perspectives*, Bishop Museum: Honolulu.

4）Beckwith, Martha Warren, 1949, "Function and Meaning of the Kumulipo Birth Chant in Ancient Hawaii," *The Journal of American Folklore*, 62: 290-93.

5）Beckwith, Martha Warren, 1972, *The Kumlipo: A Hawaiian Creation Chant*, University of Hawaii Press: Honolulu.

6）Bevans, Charles I. comp., 1971, *Treaties and Other International Agreements of the United States of America 1776-1949*, vol.8, Department of State Publication: Washington, D.C..

7）Emerson, Nathaniel B, 1909; repr., 2007, *Unwrittten Literature of Hawai'i: The Sacred Songs of the Hula*, Mutual Publishing: Honolulu.

8）後藤明，1997,『ハワイ・南太平洋の神話―海と太陽、そして虹のメッセージ―』中央公論社：東京．

9）後藤明，2008,『カメハメハ大王―ハワイの神話と歴史』勉誠出版：東京．

10）Hawaii State Archives Digital Collections, http://archives1.dags.hawaii.gov/gallery2/main.php,（参照2015.9.18）

11）市瀬陽子，2012,「バレエの起源」『バレエとダンスの歴史－欧米劇場舞踊史』鈴木晶編，平凡社：東京，8-19.

12）Kamakau, Samuel Manaikalani, 1992 (Rev. ed.), *Ruling Chiefs of Hawaii*, Kamehameha Schools Press: Honolulu.

13）Kame'eleihiwa, Lilikalā, 2003, *Native Land and Foreign Desires: Pehea Lā E Pono Ai?*, Bishop Museum Press: Honolulu.

14）Kirch, Patrick Vinton, 2012, *How Chiefs Became Kings: Divine Kingship and the Rise of Archaic States in Ancient Hawai'i*, University of California Press: Oakland.

15）Klarr, Caroline Katherine, 1999, *Hawaiian Hula and Body Ornamentation 1778 to 1858*, Easter Island Foundation & Bearsville Press: California.

16）Kuykendall, Ralph S., 1996, *The Hawaiian Kingdom* vol.1, University of Hawaii Press: Honolulu.

17）Malo, David, 1898, *Hawaiian Antiquities*, trans. Nathaniel B. Emerson, Bishop Museum Press: Honolulu.

18）松本菜穂子，2003,「トルコにおける民俗舞踊活動とナショナリズム」『日本中東学会年報』18-1: 53-90.

19）目黒志帆美，2015,「アメリカ人宣教師のフラ観－1820年代のハワイ文化をめぐる言説とその意味」『比較文化研究』116：177-187.

20）メリーモナーク・フェスティバル，「メリーモナーク・フェスティバルの歴史」, http://www.merriemonarch.com/history-merrie-monarch-festival,（参照2015.9.5）.

21）Merry, Sally Engle, 2000, *Colonizing Hawaii: The Cultural Power of Law*, Princeton University Press: Princeton.

22）*Pacific Commercial Advertiser*, March 10, 1883.

23）Pukui, Mary K. and Alfons L. Korn, 1973, *The Echo of Our Song: Chants and Poems of Hawaiians*, University of Hawaii Press: Honolulu, 42-69.

24）Pukui, Mary Kawena, 1980, "The Hula, Hawaii's own Dance" in *Hula: Historical Perspectives*, ed. Dorothy B. Barrère, Bishop Museum Press: Honolulu, 70-73.

25) Pukui and Samuel H. Elbert, 1986 (Rev. ed.), *Hawaiian Dictionary*, University of Hawaii Press: Honolulu.
26) Sahlins, Marshal, 1987, *Islands of History*, University of Chicago Press: Chicago.
27) Sereno, Aeko, 1990, "Images of the Hula Dancer and 'Hula Girl': 1778-1960" (Ph.D. diss., University of Hawaii).
28) Silva, Noenoe K., 2004, Aloha Betrayed: *Native Hawaiian Resistance to American Colonialism*, Duke University Press: Durham.
29) Trask, Haunani-Kay, 1999, *From a Native Daughter: Colonialism and Sovereignty in Hawai'i*, University of Hawai'i Press: Honolulu.
30) Valeri, Valerio, 1985, *Kingship and Sacrifice: Ritual and Society in Ancient Hawaii*, University of Chicago Press: Chicago.
31) Van Dyke, John M., 2008, *Who Owns the Crown Lands of Hawai'i?*, University of Hawai'i Press: Honolulu.
32) 山中速人, 2003,「空間モデルとしてのアフプアアの再現—3次元グラフィクスによるハワイ先住民の伝統的居住空間の再現」『国立民俗学博物館調査報告』, 35: 101-112.

※ 本研究はJSPS科研費 15H06017の助成を受けたものである。